

根治性とともに整容性も重視した 乳がん診療体制を追求

乳がんの
診断と治療



男山病院 乳腺外科 部長 松方 絢美



大阪府がん診療拠点病院

社会医療法人美杉会 佐藤病院

〒573-1124 大阪府枚方市養父東町65-1
TEL072-850-8711 http://misugikai.jp/satou_h/



社会医療法人美杉会 男山病院

〒614-8366 京都府八幡市男山泉19
TEL075-983-0001 <http://misugikai.jp/otokoyama/>



男山病院 形成外科 副部長 江野尻 竜樹

美杉会グループの佐藤病院、男山病院は2021年4月、佐藤病院乳腺外科の山内部長の発案で、両病院が協力して集学的な乳がん治療を行う乳がん診療体制を構築した。新型3Dマンモグラフィなどによる検査・診断から手術、放射線治療、化学療法、乳房再建、リハビリテーション、再発後の緩和ケアに至るまで、一貫した医療体制で乳がん患者さんをフォローしている。男山病院乳腺外科の松方部長は、「乳がんは増加傾向が続いているため、診療体制を強化する必要がありますがありました。乳腺外科と形成外科が密に連携して診療にあたる体制を構築しているのが特長です」と話す。

一方乳がんの手術では、乳房の喪失という深刻な問題がつきまとうが、男山病院形成外科の江野尻副部長は、「乳房再建では、患者さんから採取した自家組織を使う方法やインプラント（人工乳房）を挿入する方法があります。実施時期も含めてそれぞれの患者さんに合った再建法を十分に相談しながら検討していきます」と説明する。乳房再建にあたっては、「がん組織をしっかりと切除する根治性とともに、整容性との両立にも努めているという。「乳がん治療は、長期間にわたるケースも多いため、乳房再建後も継続的にフォローし、患者さんをしっかりケアしていくように心掛けています」（江野尻副部長）

また全ての乳がんの3〜5%を占めるとされ、30〜40代前半の若年発症が特徴の、遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）に対する診療にも力を入れており、関西医科大学附属病院とも連携を取りながら、遺伝カウンセリングや遺伝子検査を積極的に行なっているという。



左から江野尻竜樹医師、山内清明医師、松方絢美医師、河合泰博院長、清水謙司医師。美杉会グループでは、連携したチーム医療で乳がんの診療に取り組んでいる。

して、他の臓器に転移したがんや、関連する他の領域の疾患なども、他科と連携を取りながら速やかに対応できることは大きなメリットだと考えています」と、力強く語る松方部長。

美杉会グループでは「患者さんの苦痛をすみやかに和らげることに努めます」という理念を掲げている。新体制の構築は、「患者さんの心と身体に寄り添う乳がん診療を提供したい」という医師たちの思いが具現化した一つの形といえるのだろう。